

v2.5 Release Notes

April 29, 2024

このリリースノートでは、このリリースに含まれる新機能と機能強化について簡易的に説明します。

[本リリースノート末尾のソフトウェア・アップグレードの説明を参照してください。](#)

Version 2.5 新機能

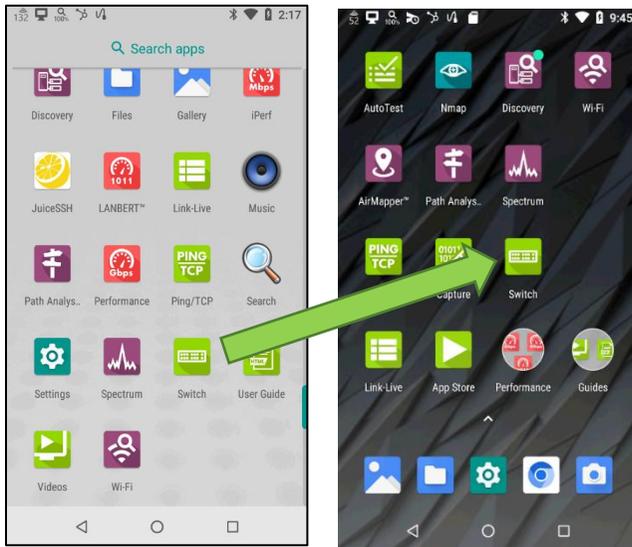
注記がない限り、CyberScope、CyberScope Air、EtherScope、AirCheck G3に適用されます。

脆弱性スキャンの向上 (CyberScope, CyberScope Airのみ)

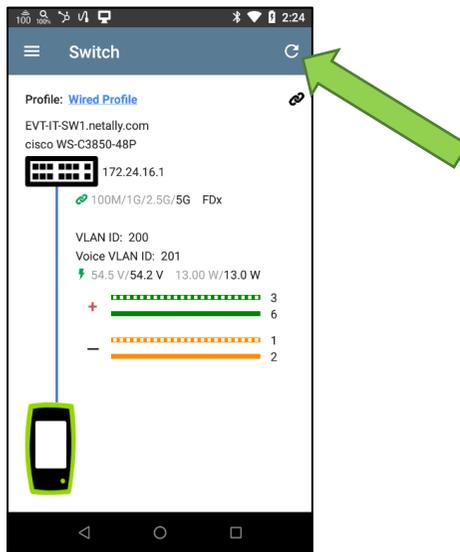
- このリリースでは、CyberScopeに複数の機能強化を追加することで、脆弱性スキャンを簡素化し、自動テストのワークフローを改善します：
 - 「Quick Scan Plus」スクリプト (`nmap -sV -T4 -O --version-light`)が、デフォルトの Nmap アプリテストとして含まれるようになりました。この強力なスクリプトを使用すると、検出されたソフトウェアバージョンに基づいてネットワークサービスの脆弱性をチェックできます。また、倫理的なハッキングまたは侵入テストのプロセスの一部として使用して、ターゲットシステムに関する詳細情報を収集し、既知の脆弱性のために使用することもできます。最後に、このコマンドを使用すると、オペレーティングシステムとサービスの情報をカタログ化することで、ネットワークに接続されたデバイスの詳細なインベントリを作成できます。
 - 自動テストアプリは、リストの最初の Nmap テストを自動的に使用して Nmap テストターゲットを初期化するようになり、脆弱性スキャンのプロセスが以前よりもさらに簡単になります。

新しいスイッチテストアプリ (CyberScope, EtherScopeのみ)

- 新しい Switch テスト アプリは、即時の接続をグラフィカルに表示することで、テスト、トラブルシューティング、検証を簡素化します。IEEE Link Layer Discovery Protocol (LLDP) に加え、Cisco および Extreme Discovery Protocol (CDP および EDP) を使用して、最も近いスイッチ名、シャーシ、モデル、スロット、およびポートを表示します。さらに、スイッチの MAC/IP アドレス、接続された VLAN とサポートされる VLAN、リンク速度とデュプレックス、接続 (MDI または MDI/X)、PoE 電圧/電力 (実際のおよび TruePower 負荷下) などのその他の重要な情報も表示します。
- 新しいアプリを使用するには、まずアプリの選択画面に移動し、スイッチテストアプリが見つかるまで下にスクロールします。次に、アプリをホーム画面内の任意の場所にドラッグします。

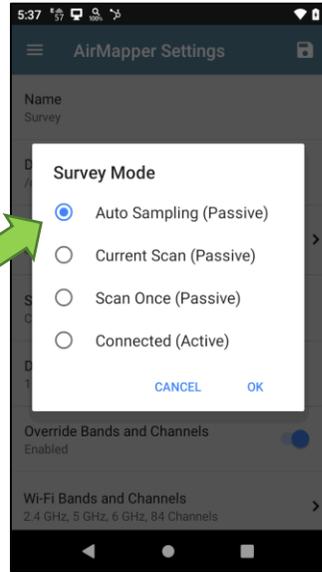
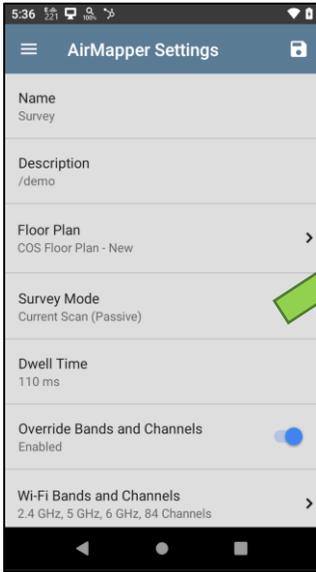


- その後、テストするスイッチポートに接続し、スイッチアプリをタップしてテストを実行します。テストを再実行する場合は、画面右上の更新アイコンをタップします。

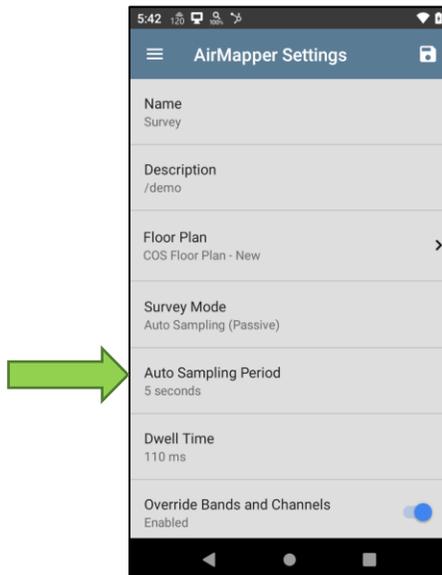


AirMapperアプリでの自動サーベイ

- 自動サンプリングサーベイは、ユーザーがタップする必要が少ないため、サイトサーベイデータを収集する簡易的な方法であると多くの人が考えています。自動サンプリングサーベイを行う場合、ユーザーは歩く方向を変えるときにタップするだけで済みます。最後のクリックと現在のクリックの間に発生したすべてのサンプリングデータは、これら2つのクリックポイント間の直線に沿って均等に分散されます。この新しいサーベイモードにアクセスするには、AirMapperアプリの設定内で [サーベイモード] に移動し、[自動サンプリング] オプションを選択します。



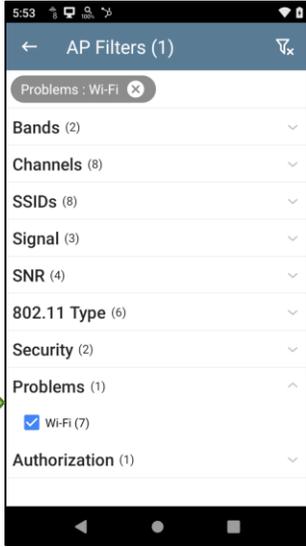
- 自動サンプリングサーベイで最適な結果を得るには、ユーザーは必ず一定のペースで歩き、自動サンプリング間隔を適切な値に設定する必要があります。歩行速度が大きく変化すると、結果として得られるヒートマップでデータが歪む(不正確になる)原因になります。



- 自動サンプリングサーベイは、長い廊下や開放的な環境で、ユーザーがほとんど中断されることなく道を歩くことができる環境に適しています。

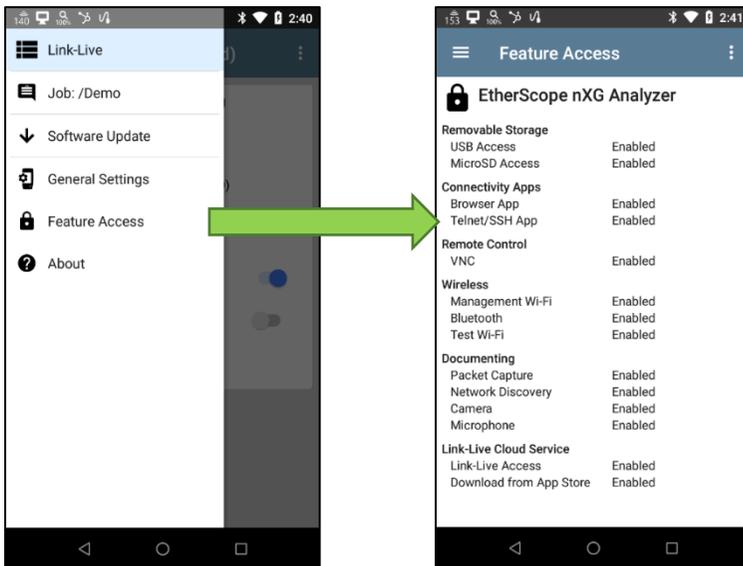
ディスカバリアプリとWi-Fiアプリの問題フィルタ

- 問題が検出された AP、BSSID、またはクライアントの識別が以前より簡単になりました。デバイスのリストを問題ごとにフィルタリングする機能が、ディスカバリアプリと Wi-Fiアプリの両方で利用できるようになりました。



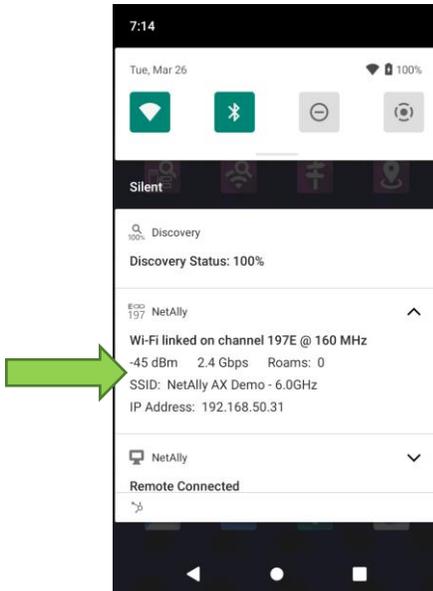
機能へのアクセス (EtherScope、AirCheck G3のみ)

- EtherScope、AirCheck G3は、幅広いWi-Fiテストおよび測定機能に加えて、さまざまなセキュリティニーズに対応するため、特定の機能を半永久的に無効にする機能を提供します。無効にできる機能は以下のとおりです：
 - USB アクセス
 - Web ブラウザ アプリ (Chromium)
 - Telnet/SSH App (JuiceSSH)
 - VNC リモート制御
 - 管理 Wi-Fi
 - Bluetooth
 - パケットキャプチャアプリ
 - ディスカバリアプリ
 - Link-Live アクセス
 - App ストア
- 「機能へのアクセス」オプションは、NetAlly アプリの左側のナビゲーションドロワーからアクセスできます。オプションを選択すると、どの機能が有効か無効かが画面に表示されます。



バージョン2.5でのその他の変更点:

- **台湾での6GHzチャンネルのサポートを拡大** - このリリースでは、台湾の CYBERSCOPE-CE-E モデルの 6GHz lower UNII-5 帯域のチャンネルのサポートが追加されています。
- **Wi-Fiリンク通知の強化** - AndroidツールバーのWi-Fiリンク通知に、テスト無線が接続されているWi-Fi ネットワークに関する詳細情報が表示されるようになりました。
 - チャンネル
 - チャンネル帯域
 - 信号強度
 - 接続レート
 - ローミング数
 - SSID
 - IP アドレス

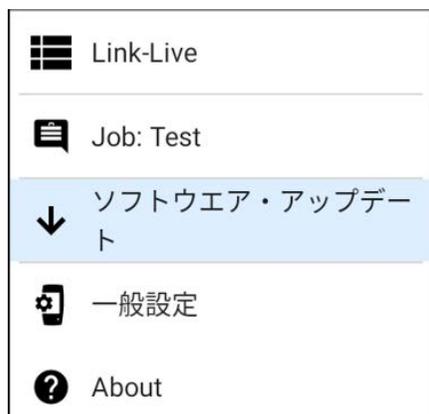


- **IPv6 Test Targets** - このリリースでは、自動テストアプリにIPv6テスト宛先のサポートが追加されました。(CyberScope Air、AirCheck G3のみ)
- **Android フォン ホットスポット** - 携帯電話の Wi-Fi ホットスポット接続をテストしたいですか?今すぐテストできます。自動テストの実行中に Androidスマートフォンの Wi-Fiホットスポットに接続できるようになりました。
- **システムアップデートの高速化** - システムアップデートのインストールが以前より速くなりました!(CyberScope Air、AirCheck G3のみ)
- **Nmapの引用** - このリリースから、Nmapコマンドを記述するときに引用を含めることができるようになります。例えば:
 - *"vuln and not smb-vuln-conficker and not smb-vuln-cve2009-3103 and not smb-vuln-ms08-067 and not smb-vuln-regsvc-dos and not ftp-libopie"* 192.168.1.45
(CyberScope、CyberScope Airのみ)

Version 2.5へアップグレード

Link-Liveにご登録いただいている場合は、OTA(Over the Air)ファームウェア・アップデートに従うことを強くお勧めします：

1. 利用可能なソフトウェア・アップデートをいつでもチェックするには、ホーム画面からLink-Liveアプリを開きます。
2. Link-Liveアプリで、メニューアイコンをタッチするか、右にスワイプして左側のナビゲーションドロワーを開きます。



3. [ソフトウェア・アップデート]をタップします。ソフトウェア・アップデート画面が開き、利用可能なアップデートのバージョン番号が表示されます。
4. [ダウンロード+インストール]をタッチしてシステムをアップデートします。
5. 完了すると、ユニットが再起動します。